

①



②



中学生のアイデアが大人も巻き込み、地域を活性化していく3年生の取組

①修学旅行でPR・リサーチ活動
福井の認知度や東陽校区の特産物について県外の人から幅広く情報を集める

②講師を招いて助言を仰ぐ
農家から米粉について話を聞き、実物を見ながら商品のイメージを膨らませる

③To You Café開催
関係企業・地域を招いて試食を交えながら、開発した商品を提案

③



(様式1)

令和7年度「ふるさとの学び特別賞」応募票

学校名	鯖江市東陽中学校
-----	----------

1. テーマとアピールポイント

テーマ	「東陽地区活性化プロジェクト」
アピールポイント	「食と環境」を通して、地域の食材を生かした商品開発と提案

2. 活動内容

<p>東陽中学校3年生120名による取り組みである。生徒たちは1年生の総合学習でSDGsの活動を進める中、若者を中心に地域の人口が減少している現状を知り、地域を盛り上げたいという思いを抱いた。</p> <p>2年生では、東陽地区を活性化する取り組みについてクラスごとにプレゼンを行い、その結果、東陽地区の農産物や豊かな自然環境を生かす方針が決まり、「食と環境」を通して地域を元気にする方法を模索することになった。生徒たちは地区でのフィールドワークを実施し、校区内の事業所や農家を調べたほか、地元の漆器会社の協力を得て、ペットボトルを再利用した特産漆器を作るため、ペットボトルの回収にも取り組んだ。</p> <p>3年生になると、生徒の発案で、地産地消を生かしたクレープやおにぎりの商品開発に挑戦することになり、「カフェ」「エシカルフード」「食器」「宣伝」「食品開発」のグループに分かれて開発を進めた。修学旅行では、「福井の認知度」や「興味を持たれる食材」などについて、東陽校区のPRを兼ねたリサーチを行った。帰校後は調査内容を共有し、その結果をもとに商品開発をさらに深め、カフェを開いて試食してもらう計画を立てた。</p> <p>準備段階では、地元農家から米粉についての講義を受けたり、市内の喫茶店経営者から調理の実技指導を受けたりするなど、多くの協力を得て学びを深めた。当日は、協力してくださった企業や事業主、市長、市議、公民館職員、民生委員、学校関係者などを招き、試食を交えながら商品の説明と提案を行う形式で発表を実施した。</p>
--

3. 年間活動実績 (12月以降の予定を含む)

3月	年間を通じて地区のイベントに運営ボランティアとして参加、その一環としておにぎり販売を行う
4月	グループ別にクレープ・おにぎりの商品アイデアリサーチ準備
5月	修学旅行でPR・リサーチ活動、その後活動報告会
6月～9月	講師・事業所を招いて商品案練り上げ、試作
9月	発表会「To You Café」の企画・準備と実施 1・2年生にも試食を交えながら3年生の取り組みを説明